

令和7年度 県立那珂湊高等学校自己評価表

目指す学校像	「自主」「勤勉」「協和」の校訓のもと、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育を推進し、地域の次世代を担う人財を育てる学校。			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	時代の変化に対応し、グローバルな視点から地域社会に貢献できる、心身ともに健やかな人間の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育活動と地域社会を意識したキャリア教育による、生徒の進路希望の実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	自らの進路実現に向け、主体的に日々努力し、何事にも挑戦しようとする生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進総合事業や校内研修における授業改善の取組により、わかる授業を展開している。 ・校内研修等を通して、ICTを活用した授業への取組が活発化し、教職員のスキルアップにもつながっている ・総合的な探究の時間や課題研究において、生徒が主体となる発表を実践することができた。 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の取り組みを外部に理解を図るための発信の工夫が必要である。(SNSの利用した情報発信、中学校や関係機関への訪問回数や時期の検討) ・基本的な生活習慣の確立と基礎学力の習得。 ・学校行事の活性化と見直し。 ・自転車運転のマナー及び公共マナーの指導徹底。 		(1) 実践的な学びの深化	① 基盤としての基礎学力の定着を図る。 ・授業時間の確保：行事の精選と実施方法の見直し、チャイム授業開始 ・多様な学習形態の研究と実践：少人数指導、TT、ICT活用等 ・家庭学習時間の確保：適切な学習課題等 ② 大学・企業・地域等と連携した取り組みを強化する。 ③ 体験活動や課題研究等の全員実施(参加)を推進する。	B
		(2) 体系的な進路指導	① 3年間を見通した計画的な進路指導により、進路意識を高揚させる。 ② 社会体験等を通して、職業観・勤労観を育成する。 ③ 個別指導等を充実させ、多様な進路希望に対応する。	B
		(3) 特別活動の充実	① 部活動・生徒会活動等への積極的参加を促し、生徒主体の活動を推進する。 ② 適切な人間関係の構築とコミュニケーション能力の向上を図る。 ③ 家庭・地域と連携・協力し、開かれた学校づくりをする。 ④ キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施していく。	B
		(4) 生徒指導の充実	① 生徒一人一人の自己有用感を高揚させる授業づくりや集団づくりをする。 ② 登校指導や校内見回り等により、問題行動の未然防止に努める。 ③ 保護者との連携を図り、より良い生活習慣や規範意識を身に付けさせる。 ④ 「公共」の授業や特別活動を要として、教育活動全体を通して道徳心を涵養する。	B
		(5) 授業改善の推進	① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。 ・教員の指導力向上のため、相互の授業参観を実施する。 ・教員が生徒による授業評価(中間評価)等をもとに、授業改善・検討を実施する。 ・「生徒による授業評価(最終評価)」の各項目が「3.0以上」(学校全体の平均)とする。	B
		(6) 働き方改革の推進	① 校務の精選と役割の明確化を図り、勤務態勢の適正化に努める。 ② 校務にICTを積極的に取り入れ、電子化による円滑な業務の推進を図る。	B

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎的な国語能力の向上を図る	漢字学習の時間を積極的に設け、小テストや定期テスト、漢字検定試験を通して漢字の基礎力を高める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書館や新聞の活用について、浸透・定着には至らなかったため、引き続き、社会の「今」に対する関心を喚起できるようにしたい。 普通科における特徴として漢検の全員3級以上の受験を実施してきたが、合格者数が低迷しているため、実施方法を見直していきたい。
		授業・ワーク・小テスト・定期考査を連動させ、知識の活用や文脈の捉え方を熟成させていく。	A		
	学習習慣を定着させる	ノート・プリント・問題集を定期的に点検し、学習の習慣を身に付けさせる。	A		
		読書の時間を設け、生涯にわたって読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	B		
	進路目標の実現に向けた国語力の向上を図るための授業改善	新聞記事を活用し、社会の出来事に対する自らの考えを深めさせる機会を増やす。	B		
		進路対策用ワークや進路に対応した作文・小論文の指導を行うなど、進路に直結する国語力向上のための機会を充実させる。	A		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る	中学時の学習内容とその習得の度合いを確認し、知識や理解の程度を把握しながら、基礎学力の定着を重視した授業を展開する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 理解度等の確認方法の検討 ICT機器の有効活用の探求
	基本を理解させ生徒の興味・関心を喚起する授業を目指す	視聴覚教材の活用や、授業における言語活動等を通して、生徒の興味・関心を喚起しつつ、思考力と表現力を育成する。	B		
数学	基礎学力の定着を図る	反復演習を行い、進学・就職試験に対応できる基礎学力を定着させる。授業においては習熟度熱学習を行い、基礎的な計算能力を身に付けさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習のクラス編成 基礎学力の見直し デジタルドリルの活用方法
	指導技術の向上を図る	授業にベネッセデジタルドリルを取り入れ、Chromebookを活用する。また、相互の授業見学を適宜行い、改善点を指摘しあう機会を設ける。	B		
理科	基礎学力の向上を図る	日常生活や社会との関連を意識させる題材設定を行い、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感させる。互いに教え合う場や、小テストなど獲得した知識を活用する場を与え、知識の定着・理解の深化を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を意識した課題設定を行い、科学の有用性を実感させる工夫を凝らした。生徒の実情に即した観察・実験を取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成に努めた。一方で、生徒の個々の習熟度の差が大きく、生徒の多様性に合わせたきめ細やかな授業デザイン構築が課題である。
	自ら問いを立てられる力を育む	観察や発問などから自然の事物・現象の中に問題を見いだす機会を設ける。問題や疑問を解決するために見通しをもった観察・実験を行わせる。実験結果や資料等から考えられることを、グループでの話し合いなどを通して導き出し、表現する場を設定する。	B		
	授業改善に向けた取組	授業での自己の変容を記録する場面を設け、粘り強さと学習調整力を向上させる。教師自身も生徒の振り返りや反応などから授業の良い点と改善点を把握していく。教員間で授業の方法や内容、過去の考査の内容などを共有して、教員の授業の習熟に取り組む。	A		

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
英語	基礎学力の向上を図る	コミュニケーション活動に重点を置きながら、既習内容の復習を取り入れた授業展開を行い、ワークシートを工夫することで生徒の理解を深めさせる。	A	B ・英語検定の位置づけについて検討する。 ・自主学习用の教材を検討する。 ・教科書の内容に即した教材作成などより積極的なALTの活用などが課題である。
		定期的に英単語テストを実施し、語彙力を向上させる。	A	
	異文化理解を深める	A L T の積極的活用を通して、異文化理解を深めさせる。	B	
	個々に応じた学習支援を行う	実用英語技能検定3級以上の受験を促し、個別指導や課外等での受験支援を行う。	B	
		定期的な課題出題またはパフォーマンステストを行うことで、家庭学習の習慣を身に付けさせ、生徒の学習習慣の状況を把握する。	B	
授業改善に取り組む	授業の進め方や内容、教材などを共有したり、授業時に行っている生徒の振り返り等を活用したりしながら授業力の向上を図る。	A		
保健体育	学びに向かう力・人間性の育成	毎時の集団行動を通して、集団の中の一人としての自覚を持たせる。また、ルールやマナーを大切にするとともに、健康・安全を確保し、主体的に授業に取り組ませる。	B	A ・実際には難しいが、授業における生徒指導的な側面と評価のあり方について、学校の実態に即したモノであるべきと感じる。 ・保健の授業内で調べた内容について相互プレゼンさせるなど、新たな工夫と挑戦を検討したい。
	体力・技能の向上	生徒の体力・技能のレベルに応じて、各種目の学習方法の工夫改善に努め、体力・技能の向上を図る。	B	
	心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成	学習形態・教材の工夫やI C T機器を活用し、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、解決に向けて考え、判断する能力を育成する。	A	
	授業改善に向けた取組	授業の進め方や内容、教材などを共有し、授業時に行っている生徒の振り返り等を活用したりしながら授業力の向上を図る。	A	
家庭	基礎知識・基礎実践力の定着	自分のライフコースについて考え、自立のために必要な知識と技術を習得し、健康で快適な生活を営む力を身につける。	B	B ・生徒が主体的に取り組むための授業展開の工夫。 ・自立した生活をするための知識と技術を習得するため、実習の時間確保。
	実習への主体的かつ意欲的な取組	効果的なI C Tの活用をし、実習や製作に主体的に取り組むための環境を整える。実習を通して、生活に密着した技術と知識の習得を目指す。	B	
	課題解決能力の育成を図るための授業改善	ホームプロジェクトを通して、身近な課題解決をする実践力を身につける。さらに発表をすることで言語活動の活発化を図る。	A	

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
音楽	知識・技能の習得	音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の働きと関わらせて理解できるようにする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に主体的に取り組み、生徒同士が教え合う学習活動ができた。実技の奏法について、生徒の目の前で実演して見せることで、奏法を習得するために生徒達が試行錯誤するようになったため、効果的であった。 ・ 来年度は本年度取り扱いが少なかった創作の活動を多く取り扱い、音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号をより実践的に理解し、音楽的に表現できる授業を充実させたい。
		曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりや音楽文化の多様性を理解させる。	B		
	思考力・判断力・表現力等の育成	知識や技能を生かしたりしながら歌唱や器楽の音楽表現を創意工夫して演奏表現ができるようにする。	B		
		楽曲の背景や作曲者の思いや意図を感じ取りながら楽曲を深く味わって聴くことができるようにする。	A		
	学びに向かう力・人間性の涵養	音楽の学習に主体的に取り組むことができるよう、生徒同士の考えを交流し、共感・共有しながら、音楽表現や鑑賞の学習の質を高められるようにする。	B		
授業改善に向けた取組	授業の終末では学んだことを言葉で確認し合うだけでなく、実際に学んだことを生かして「歌う」「演奏する」「聴く」等の振り返る活動を行い、学びの達成感などを味わわせる。	A			
書道	書写能力の向上を図る	小・中学校国語科「書写」で学んだ実用書との関連性について理解し、美しく読みやすい文字を安定して書ける力を養う。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具、用材、用筆、運筆の特徴とその違いについて、理解できるよう工夫し、幅広い表現方法を身につけることができた。 ・ 日本の伝統文化を学ぶ授業は、生徒が試行錯誤しながら作品を作る様子が見え、効果的だった。 ・ 今後は、教科横断的な授業を展開できるように授業を充実させていきたい。
	表現の能力を高める	用具・用材・用筆・運筆の特徴とその違いについて理解し、幅広い表現方法を身につけさせる。	B		
		日本・中国の古典について、理論(歴史的背景・成立経緯・書人・書写内容等)及び技術(古典の特徴・運筆時のポイント)を体系的に理解させ、臨書作品の制作を行いその成果をあらわす。	B		
		古典学習で身につけた基礎をもとに、紙面構成や用具用材、表現方法など、創作作品の制作を通してその成果を表す。	B		
	鑑賞の能力を高める	書道作品の鑑賞方法について説明を行い、基本的なマナーを習得させる。	B		
		鑑賞会を行い、作品を観る力を養う。	B		
授業改善を図る	主体的・対話的で深い学びを定着させるため、体験型授業、ICT活用、教科横断的な学習等を積極的に取り入れ、よりよい授業に向けた取り組みを行う。	B			
情報	情報モラル、課題の発見・解決力の育成	Chromebook などネットワーク機器の適切な利用方法について学習するとともに、情報モラルの学習に力を入れ、現代社会の課題の発見・解決など、情報社会に積極的に参画する態度と情報社会に生きる力を身につけさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の授業の中で、生成AIの活用を、今後どのように行っていくのか、いろいろと検討していかなければならない。
	情報活用実践力の育成	Chromebook などの複数の機器やWindows各種ソフトウェア (WordやExcel) などの活用能力を育成するとともに、Google for Education の各種ツールを活用した授業を実践する。	B		
	学習内容の充実	プログラミング、モデル化とシミュレーション、ネットワークなどの学習に力を入れ、生徒が理解できるように体験的な学習に努める。	B		

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
商業	学習方法の理解を図る	「学ぶことの意義」を理解させることを最優先とし、協働学習、個別最適化学習を提供することでチャレンジできるための土台を継続的に築く。	B	B <ul style="list-style-type: none"> ・自律的な学びを習慣化させる、最適な学習空間を構築する。 ・多種多様な研修に触れ、自身のスキルセットを多角的に広げていく。 ・生徒がいつでも気軽に声を届けられる、アクセスの良いプラットフォームを整備する。 ・産官学連携を視野に入れた、持続可能な地域学習プラットフォームを整備する。 ・「見つけてもらい、選ばれる」ためのマーケティング機能を強化し、社会の変化に即応できる学校組織へとアップデートする。
	授業改善を図る	教科全体として個別最適化学習、授業改善を図る。また、各種団体の研究会等へ積極的に参加し、情報等を共有し、生徒と共に「何のためにやるのか」を明確にする。	B	
	授業時間の確保に努める	商業科目の授業填補は商業科で行うなど、授業確保に努める。	A	
	体験型授業の推進する	各科目において体験型学習を推進し、生徒に失敗できる環境作りを継続する。生徒たちの「こんなことがやってみたい」という声を拾い上げる。	B	
	地域貢献等への積極的な参加を図る	専門性を活かした創造力、企画力・説明力を育成し、継続して地域貢献や地域協働学習を視野に入れ、授業を展開する。	B	
	広報活動を充実させる	毎年、実践報告書を発行し、中学生体験入学及び企業訪問などで商業学科における活動内容について広く情報提供を行う。 学校マーケティングを意識し、生徒が取材活動を行ない、企画、情報発信力を身につけさせるよう努め、生徒による情報発信SNS等を活用した広報活動を実施する。	A	

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業時間の確保と学習評価法の研究	出張・年休等における授業時間の振り替えを徹底し、填補を教科内で行うことにより、授業時間の確保と授業の質を向上させる。また、「チャイム開始」「チャイム終了」を厳守した授業を行う。本校の実態に応じた観点別評価法について研究を継続する。	B	A <ul style="list-style-type: none"> 授業の振り替えができていないこともあり、填補に行ってもらった先生に迷惑をかけた。授業振り替えが徹底できるよう改善が必要。 学校説明会のさらなる充実をはかる。 昨年度の比べ広報関係は充実してきた。定期的に更新したりするなどさらなる改善が必要。 教員研修を多く開催することができた。しかし教務に負担がかかりすぎ。改善が必要。 視聴覚室を対話的な授業ができる教室に整備していきたい。教室の使い方などの指導も必要。 モノが返却されなかったり、データが消去されたりする現象が発生することがあった。今後の管理の徹底を継続したい。
	広報活動の充実	学校案内やWebページ等の広報の工夫改善を行う。新たなSNSツールを活用した広報活動を充実させる。	A	
	学習指導法の工夫改善	年間指導計画の見直しと学習指導要領の再確認を徹底する。	B	
		教員向け研修会(校内外)の確保と基礎学力診断テストの成績分析を行う、また学校公開を授業だけでなく、学校行事や生徒の研究発表会を公開するなど、学校の公開の拡充に努める。	B	
		生徒個人所有のChromebookや本校所有の情報機器の効果的な活用法について研究し、すべての授業で情報機器を活用する。また貸し出し用Chromebookの管理を徹底する。	A	
	オンラインや情報機器を活用した働き方改革	Googleドライブの共有、職員室の大型モニタによる職員の情報共有、フルクラウド統合型校務支援システムBLENDを導入したことでの仕事の効率化、積極的な活用を推進する。また職員連絡用のスプレッドシートやGoogleカレンダーの確認やフォルダの整理を徹底する。	A	
	校内の情報環境整備	校内のネットワーク、情報機器の整備・保守を円滑に行い、全生徒・全教職員を対象にBYOD(個人所有端末の持込)ができる環境づくりを推進する。	B	
	緊急事態への対応	自然災害や気象障害などの緊急事態に生徒や保護者に情報が円滑に伝わる体制づくりを推進する。	A	
	図書室の環境整備	生徒の学習や読書のできる環境整備を図る。また、誰もが気軽に利用しやすい雰囲気作りを推進する。生徒・職員のリクエストに応じた図書の購入計画を立てる。	A	
	図書委員会の活動の活性化	図書委員会の活動を通じて、図書の貸出・返却がスムーズに行える体制づくりを行うとともに、生徒自ら、図書案内や図書室の環境整備が行えるように働きかける。さらに、他校の図書委員会や地域との交流も推進する。	A	
視聴覚室の整備	視聴覚室の配線整備等を行い、生徒・教員の有効活用を見直す。	B		

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒支援	基本的な生活習慣の確立と規範意識の涵養	遅刻カードの活用、チャイム着席指導等を通して、時間を守る習慣を身に付けさせる。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 継続的な注意喚起 全職員による継続的な指導 情報共有の徹底 外部講師による専門的な講話を検討 啓発チラシ等の継続的な配信
		登校指導や頭髪服装指導、職員室入室時の礼法等を通して、挨拶・服装・言葉遣い等のマナーの向上に努める。	B	
	問題行動の未然防止・早期発見	本校のいじめ防止マニュアルに沿い、情報の共有といじめの未然防止・早期解決に努める。	A	
		スマートフォン等の正しい使用・マナーについて指導し、SNS上のトラブルや事故を未然に防ぐ知識と環境づくりを進める。	B	
	交通安全教育の推進	交通安全講話や自転車安全点検及び街頭見守りや交通安全キャンペーン等を通じて交通安全に関する意識の向上を図る。	B	
進路指導	進路学習の推進	進路ガイダンスや学校見学、インターンシップ等を計画的に実施して、生徒が自己の進路について考える機会や場を充実させる。	B	B <ul style="list-style-type: none"> 進路指導に対する共通理解がなく、学年色が強くなる傾向にある。改善が必要。 DX化を進めているが、教員と生徒の活用方法、周知の仕方に改善が必要。以前の紙ベースによる進路指導に戻すなど、適切に運用していきたい。 教員と保護者、生徒の意見交換、意思疎通が難しい部分が多かった。進路指導教員を刷新し、対応する必要がある。
	進学支援の充実	早期から学校研究を行い、自分に合った学校に進学できるように面談等の指導を行う。大学・短大・看護医療系進学希望者を対象に模擬試験を実施し、受験への意識付けを図る。あわせて奨学金制度等について、保護者への情報提供を行う。	B	
	求人開拓の継続	積極的に企業訪問を行い、本校への求人を継続してもらう。また、外部団体と積極的に交流して、新規立地企業や将来有望な産業についての情報収集や研究を行う。	A	
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動や各行事で生徒主体の活動を推進する。	A	B <ul style="list-style-type: none"> クラス数や男女比から各種行事の実施方法を柔軟に見直すことができた。今後も生徒主体の活動を目指し、ニーズや現状に合わせて取り組んでいく。 仕事の分担を見直し、過度な負担がかからないよう調整する。進捗状況を計画的に報告・連絡し、組織全体での学校行事の運営を目指す。 他校や先進校におけるキャリア・パスポートの活用の事例を踏まえ有効的な活用方法について検討をする。
	学校行事の充実	時代や環境にあった行事内容を再構築していく。	A	
	部活動の活性化	部活動を通じて生徒の心身の成長を促し、より良い将来に結びつけられるよう、環境や運営体制を見直す。	B	
		部活動顧問が連携して指導にあたり、弾力的な指導体制が取れるようにする。	B	
	キャリア・パスポートの有効活用	キャリア・パスポートの有効的な活用法を検討し、実施する。	C	
保健厚生	学習環境の整備	整備委員会の活動を活性化し、全生徒による清掃を徹底させ、校内の美化に努める。	B	B <ul style="list-style-type: none"> クラス数、教員数の減少に伴い清掃分担区域の見直しをしたが、日常の清掃が入らない場所が増加したことへの対策が課題。 緊急時の帰宅方法等に関する調査および訓練等も必要である。
	災害への迅速な対応	総合防災訓練を行い、火災や地震、原子力災害時の人的・物的被害を軽減できるように努める。緊急時に保護者等への連絡が正常に機能できるよう、緊急時メールおよびBLENDの保護者連絡を確立させる。	B	
	健康教育の充実	性教育・禁煙教育・がん教育の講話を学年進行で実施する。普通救命講習を実施することで、身体と命の大切さを認識させ、健康への意識を向上させる。	A	
	教育相談体制の充実	校内で教育相談を実施するとともに、多様な問題を抱える生徒への対応を図るため、専門家の支援による教育相談体制を充実させる。	A	

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
渉外	生徒が充実した学校生活を送れるような協力体制作り	保護者とのコミュニケーションを図りながら、相互の理解を深める活動を行い、新しいPTA事業のあり方を考える。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> PTA事業について、簡素化できるところと、維持していくところを見極め、体制を整えていくことが課題。 次年度も後援会・同窓会との情報交換を積極的に行い、連携を深める。 	
		挨拶運動などに参加することによって、生徒を見守る体制を保護者と教員で充実させる。	A			
	保護者のPTA活動への参加促進	PTA役員を中心に広報誌作成、文化祭など学校行事、また研修会への参加を促し、保護者同士または教職員との交流・情報交換ができる場を提供する。	A			
	地域や近隣の学校との協力・連携の強化	後援会・同窓会の協力を得て、学校を取り巻く地域の安心・安全な環境づくりを確保する。	B			
1学年	基本的生活習慣の確立と高校生としての自覚・適応	BLENDシステムを活用して保護者との連携を密にし、基本的生活習慣の確立を協力して支える。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は本校生活へ適応してきている。基本的生活習慣や規律について、高校生としての自覚がより高まり、行動化できるよう保護者との連携を強化し、継続して働きかける。 	
		全体や個別への説明等とおし、規律を守り、集団生活におけるマナーを身につけるよう支援する。	B			
		クラスや学年で交流し、学校生活における適切な人間関係やお互いを尊重する態度を育成する。	A			
	基礎学力の定着と進路への意識づけ	各教科との連携のもと、ICT機器等を活用し、前向きに学習に取り組む姿勢を育成する。	A			A
		探究学習や進路学習をとおして、自己理解や将来の進路選択について意識が高まるよう支援する。	A			
		資格取得、販売実習、発表大会等に挑戦し、自主的・主体的に取り組む態度を育成する。	A			
働き方改革を推進する	ICT機器やBLENDシステムの連絡機能を活用して連携することで、円滑に業務を推進する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ClassroomやBLENDの機能をより活用できるよう情報を共有する。 		
2学年	高校生としての自覚と基本的生活習慣の確立	BLENDの出席状況に加え、状況に合わせて連絡機能や電話で保護者との連携を密にする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルなど活用し生徒が主体的に基礎学力を身につける態度を養う。 自己理解を深め、自分に合った進路選択をする力を養う。 進路を決定した後も、社会人としての常識やマナーを大切に生活を送れるよう指導する。 学年団での役割分担や協力体制を整え、学年の経営を円滑に進める。 	
		規則やマナーについては、個で対応するのではなく、複数人で対応指導する。				
	基礎学力の定着と進路実現への準備	授業開始時に机上(準備物・不要なもの)を確認し、授業に集中できる環境を整える。	A			
		計画的に進路行事を実施する。基礎力診断やマナビジョンなどの活用。				
		資格取得・発表会・ボランティア・販売実習への周知方法をわかりやすくし、1年時不参加者・未受験者のモチベーションを上げる。				
		個人面談を通して、生徒の進路希望と方法を明確にする。				
	互いに認め合い、高め合う集団の育成	修学旅行・文化祭・クラスマッチにおいて、建設的な対話を通して意見をまとめる体験をさせる。	B			
		年次の目標を伝え、生徒に見通しを持たせて自ら考え行動できる主体性を身につけさせる。				
働き方改革を推進する	学年会を定期的に短時間で開催し、共通理解を図る。また役割分担し仕事を平坦化する。	B				

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
3 学年	進路希望の実現	進路指導部の協力の下、進路に関する情報を生徒・保護者ともにわかりやすく発信し、主体的な進路決定のための支援をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力不足が課題である生徒が多く、筆記試験をさける傾向がある。選択肢を減らさないためにも、基礎学力の定着を図らなくてはならない。 進路決定後の学校生活については、頭髪や服装の乱れが目立つ。社会に出るための準備をするという意識を持たせなくてはならない 進路関係書類作成の時期は、どうしても放課後の時間を使う必要があった。履歴書のデータ化などICT化は進んでいるが、勤務時間内に処理することは難しい。
		生徒面談を密に行い、進路希望を明確にする。情報を学年全体で共有し、学年スタッフが協力・連携できる体制を整える。		
		進学希望者は2校以上のオープンキャンパス、就職希望者は2社以上の会社見学に参加させ、比較・検討した上で進学先・就職先が決定できるよう支援する。		
	社会人としての教養を身に付けさせる	社会や学校の規律を守り、TPO をわきまえた身だしなみや言葉遣いができるようにする。	B	
		外部講師を招いて名刺交換の仕方や電話の受け方の指導を実施し、社会人として身に付けるべき礼儀を身に付けさせる。		
		スーツの着こなし方やメイク方法についての講座を開設し、社会人としての身だしなみの整え方を身に付けさせる。		
働き方改革を推進する	生徒に対して時間内・期限内で提出書類等を仕上げるよう指導し、放課後遅くまで指導することがないようにする。 (勤務時間の超過が月 45 時間、年 360 時間以内になるようにする。)	B		

※ 評価規準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない